

高田短期大学通信

高田短期大学通信 第53号 2018年(平成30年)6月13日 発行 高田短期大学・編集 図書委員会

新しい学修環境

学長 栗原 廣海



本紙が発行される頃には、平成三十年度も早二か月が過ぎ、新入生の皆さんも新しい学修環境に少しずつ慣れて、毎日楽しいキャンパスライフを送っておられることと拝察します。

さて、学生の皆さんのよりよい学修を支援するために、その環境を不断に改善するよう本学は心がけていますが、本年度改善することのできた二件について述べたいと思います。

まず第一に、一部の大教室を除く各教室の机と椅子の総入れ替えです。大講義室と視聴覚教室については、数年前に取り替えましたが、一般教室と演習室については、新しい校舎ができたことに新しいものを追加してはきたものの、古いものは恐らく開学以来、五十年以上にわたって使用し続けてきたものだったと思われる。皆さん大変行儀良く、丁寧に使っていたに違いないので、まだまだ使用に耐えるものではあったのですが、学びの歴史とともに若

干の汚れや傷みも刻まれてきていましたので、このたび、全て入れ替えることといたしました。

二年生の皆さんは、進級を祝うかのように新しく、明るくなった学修環境に驚かれたことと思います。机は以前より少し大きくなり、椅子は人間工学的に設計されたものですから、以前より疲れにくく、学修に集中しやすくなったのではないかと思います。

また、以前のもの同様、すべて移動可能で一人使用のもので、グルーブワーク等にも適し、アクティブラーニング型の授業にはもってこいの環境です。新しい環境の下、新入生の皆さんも二年生の皆さんも、ともに集中してそれぞれの学びを深めていただきたいと思います。

次に、本年度よりLMS(学修管理システム)として「manaba」を導入しました。このシステムによって、学生の皆さんは、自分の学修を自分自身で管理することができるようになります。manabaには、皆さんが履修している全ての授業の情報が登録されています。この情報はクラウドの形態で提供される、いわゆるクラウドサービスによっていますから、学内だけでなく、インターネットに接続できる環境があれば、いつ

でも、どこでもアクセスすることが出来ます。授業の教材や資料を、このシステムから得ることが出来ますし、授業に関する連絡を先生から受け取ったり、皆さんから担当の先生へ問い合わせをすることも出来ます。出された課題に対してレポートを作成しmanabaに提出すれば、先生はそのレポートにコメントをつけて皆さんに返すことも可能です。

manabaには皆さんの学びの履歴が蓄積されますから、自らの学修成果を、自分自身で可視化されたデータとして確認することができるようになります。授業時間外の学修を支援し、皆さんの主体的な学びを促進します。

また、各授業終了時、これまでペーパーベースで行っていた授業評価アンケートは、今後はこのシステムを利用して実施することになります。大学側としては、アンケートが手軽に行えるようになり、効率よく集計できるようになります。

manabaは、より深い学修を促進するとともに、その成果を見える化してさらに次へのステップを指す有用なシステムです。

新しい学修環境の下、皆さんが主体的、能動的に学修されることを心より願っています。

目次

学長のごとは	1
学科紹介	
・子ども学科	2
・キャリア育成学科	
オフィスワークコース	3
介護福祉コース	4
トピックス	
・学生自治会、部活動の紹介	
女子バレー部、女子サッカー部	5
学生生活・学生生活支援	
・新入生宿泊研修、	
オーストラリア研修	6
・キャリア支援センター、	
保健室、カウンセリング室	
外国人留学生支援室	7
地域連携施設等	
・仏教教育研究センター、	
育児文化研究センター、	
図書館	8
・キャリア研究センター	
介護福祉研究センター	
高大教育交流事業	9
着任、人事、同窓会近況	10
卒業生からのメッセージ、	
貸借対照表	11
就職状況、編集後記	12



新しい時代の教育課程



子ども学科長
千草 篤磨

平成三十年四月から「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」等が改定され、新しい内容の保育がスタートしました。これに伴い、保育士や幼稚園教諭を養成する短期大学等の教育課程も平成三十一年度から改定されることになっていきます。

この教育課程の見直しには、様々な社会情勢の変化が影響しています。まず、保育所等を利用する子どもの数の増大が挙げられます。特に、三歳未満児の利用が大きく増えていることです。次に、子育て世代の孤立感が深まってきていることが挙げられます。それに伴い、児童虐待件数が増加してきたことや、子どもの貧困問題が深刻になってきていること等があります。

本学子ども学科ではこの様な情勢の変化を考え、来春に向けてカリキュラムの改編に取り組んでいるところです。

活動報告

見学実習

五月、一年生が高田幼稚園、高田保育園での見学実習を行いました。現場の先生方の動きを観たり、実際に子どもたちと触れ合ったりする中で、保育職の難しさや楽しさを実感することができました。



オープンキャンパス

六月と七月、本学でオープンキャンパスが開催されました。学生が主体となり、「授業&実習コーナー」「音楽&保育教材コーナー」「見学コーナー」

実習を経験して



子ども学科二年
奥西 穂奈美

高田短期大学に入学して一年が経過しました。今までにならぬ経験が多くでき、さらに保育者になりたいという気持ちが強まった一年になりました。

幼稚園と保育所に実習へ行き様々なことを学びました。保育者のあるべき姿や子どものモノを見る目の美しさを目の前で体

の企画・運営を行い、高校生に子ども学科での学びを紹介しました。多くの高校生や保護者の方々に子ども学科の魅力を知っていただく機会となりました。



春季就職特別講座

三月、一年生を対象に春季就職特別講座を開催しました。その中で、就職が内定した二年生から就職活動に向けての体験談を聞きました。就職先を決定するまでの心の葛藤や決めてからの就職試験までの取り組み、内定後の卒業までの心構えなど、一年生にとっては参考になる内容ばかりで、就職に向けての意識が高まりました。

験し、自分に足りない部分は何なのか、子どもとどのように関わりたいのかたくさん考えさせられました。

二年生になりよいよ就職活動が始まります。まだまだな部分は常に向上心をもち続け、メリハリのある明るく元気な保育者、子ども達だけでなく保護者も支えられるような保育者を目指し、残りの一年を悔いなく過ごしたいです。



子どもの貧困対策の課題

武藤 敦士

近年注目を集めている子どもの貧困問題対策として学習支援が行われている背景には、進学や資格取得によって、貧困世帯の子どもを安定した雇用につなげようとする狙いがある。

この取り組みは一見、目的地的であるように見える。ところが、大学や専門学校に進学にかかる費用を貸与型の奨学金に頼っている現状は、貧困世帯の子どもにも多額の借金を背負わせ、労働市場に送り出すシステムとして成立している。しかも、

夢を叶えるために



子ども学科一年
大本 真未

入学してもうすぐ一カ月が経ちます。新たな環境の中、友達もでき、少しずつではありますが、慣れてきたように感じます。高校には無かったゼミがあり、これからのたくさんの思い出を作っていけると想像するだけで楽しみです。また、新入生宿泊研修では、みんなで意見を出

卒業後の雇用が保障されているわけではない。

仮に就職に成功しても、そこから長い年月をかけて奨学金を返済していくことになる。その過程において、当事者に失敗は許されない。何らかの理由で仕事を辞めた場合も、奨学金の返済義務を免れるわけではない。さらに、次の仕事も早期に見つかる保証もない。就職先がブラック企業であっても容易に辞められない現実が待っている。

子どもは将来、この国を支える労働力になる。労働力の世代的再生産である。もし、そのための支援策に誤りがあったとしたら、いずれこの国を支える労働力は疲弊し、今以上に多くの問題を抱えるであろう。

し合い、協力する大切さを改めて感じました。

高校とは、異なり、自分自身の夢を叶えるために、直接関係のある学習内容ばかりなので、興味を持ち、学習に取り組むことができ、学習したことを自分のものにし、これからある実習に生かしていきます。

来年のこの時期には、就職活動が始まります。一人一人行きたい道に行くためにも、二年間という時間を大切に過ごしていきます。

キャリア 育成学科 オフィスワークコース



キャリア育成学科
オフィスワークコース長
野呂 健一

就職活動を通じた人間力の向上

クコース二年生の皆さんは就職活動の真ただ中です。内定を得ることだけを目的とせず一人の人間としての大きく成長してもらいたいと考えています。

面接では価値観の異なるさまざまな人と会話をします。分かりやすく効果的な伝え方を工夫する中でコミュニケーション能力が磨かれます。学校の試験ではたくさん勉強すれば点数を取れますが、就活では思い通りに進まないこともあります。あきらめずに取り組むことによって、忍耐強くなったり、切り替えが早くなったりします。また、短大の勉強との両立を通じて時間管理を身につけ効率的に仕事を進められるようになります。

就活を通じて社会に出てから役立つ人間力を身につけられるよう、教職員一同一層の支援をさせていただきます。

活動報告

スキルアワード表彰式

スキルアワードは、学生の資格取得を支援する本コース独自の制度です。各学期の第一回ゼミにおいて、資格をたくさん取得した学生や、難易度の高い資格を取得した学生を表彰しています。惜しくも表彰されなかった学生も含め、二年間でさまざまな資格にチャレンジし、自信を深めています。



スタートアップゼミナール
主体的に学び、短大生としてふさわしい行動をとるための準備をする「スタートアップゼミナール」の一環として、ブックレビューの発表を行いました。各学生がおすすめの一冊について紹介する際に用いた、個性あふれる紹介チラシを図書館前で展示しました。

二年生になって



キャリア育成学科
オフィスワークコース二年生
小黒 真梨子

二年生になり、いよいよ就職活動が始まりました。不安はありますが、今まで学んできたことが自信につながっています。一年生では、ビジネススマナリー簿記といったビジネススキルを高める授業が多くありました。また、資格取得にも力を入れてきました。受検することで自分

備をする「スタートアップゼミナール」の一環として、ブックレビューの発表を行いました。各学生がおすすめの一冊について紹介する際に用いた、個性あふれる紹介チラシを図書館前で展示しました。



卒業研究レポート発表会

短大での学びの締めくくりとして、ゼミナール教員の指導のもと、独自のテーマを設定し、調査や分析を行った成果を卒業研究レポートにまとめました。発表会では、各ゼミから代表として選ばれた六名が、コースの全学生や教職員の前でプレゼンテーションを行いました。

の実力を試すことができます。不合格だったとしても、「次に合格するためにはどう改善したらよいか」という姿勢が大切だと思っています。常に良くしていこうとする向上心は勉強だけでなく仕事をやるようになって必要です。今まで取り組んできたことは必ず力になっていていると思います。そして、周りには支えてくださる方がいるので前向きに就職活動をしていき、残りの学生生活を楽しみたいのです。

高田短期大学に入学して



キャリア育成学科
オフィスワークコース二年生
喜田 依知果

もうすぐ入学して一ヶ月がたちます。大学にはまだ慣れないことがたくさんあります。まず、連絡事項や宿題の管理などすべて自分で確認しなければならぬことです。高校とは違って何事にも積極的に取り組む姿勢が大事だと思いました。次に、大



変化、興味尽きぬ中小企業

中畑 裕之

第二次世界大戦以降の産業の盛衰や技術変化の中で、地域の中小企業がどのように生き残って来たのかを、研究テーマの一つとしている。

このテーマに興味を持ったのは、伊賀市にあるナベルの永井社長から次のような話を伺ったことが大きい。

同社はカメラ用の蛇腹メーカーとして昭和四十七年に創業。高品質のカメラ用蛇腹で信頼を得ていたが、技術変化でカメラに蛇腹が要らなくなってしまう

学の授業は九十分と長く、内容についていけるか不安でしたが、わからないときは空き時間や昼休みなどに友達と教えあったりしている、不安だった感情が少し楽になりました。来年には就職活動も始まり、さらに忙しくなるので一日一日を大切に、自分に向けていることを探していきながら充実した大学生活を送っていきたいと思っています。

この経営が非常に厳しくなった時に、同社は自分たちの作っている蛇腹をカメラの部品ではなく、「必要な時に伸び、不要な時に縮むもの(伸び縮みするカバー)」と定義し直したという。

こう考えを変えたと蛇腹の用途は大きく広がる。現在同社は医療機器の可動部を覆う伸縮式カバーや、工作機械のレーザー加工機用カバーなど、幅広い分野に製品を提供し、海外市場にも展開している。

「強いものが生き残るのではなく、唯一生き残ることが出来るのは変化できるものである」というのはダーウインの言葉だが、中小企業のダイナミックな変化の歴史に興味尽きない。

キャリア 育成学科 介護福祉コース



留学生と介護福祉士国家試験の学習指導



キャリア育成学科
介護福祉コース 准教授
福田 洋子

平成三十年一月の
国家試験から介護福祉士養成施設の
学生も国家試験を受験することにな
りました。今年の介護福祉コースの卒
業生には留学生が在籍していましたが、
その学生も国家試験を受験し、見事
合格して笑顔で卒業していきまし
た。

その学生は、勉強熱心でしたが、日
本語は曖昧な感じで話をしていました。
ところが、国家試験の模擬問題を解く
ようになってから、日本語が理解でき
ないと慌てだしました。国家試験勉強
から日本語理解の重要さが身にしみ
たようで、試験前日までの本人の取り
組みの凄さには脱帽すると同時に、国
家試験勉強の威力を感じたものでし
た。

現在、一年生、二年生に留学生が在籍
しています。彼らの日本語力は、国家
試験合格には少し速いものがあると感
じています。平成三十一年一月の国家試
験に臨むにあたり、傾向と対策を早目
に行い、笑顔で卒業できるように気を
引き締めないといけないと考える毎日
です。

活動報告

地域の高齢者との連携事業

本学介護福祉研究センターと
連携し、鈴鹿市白子公民館の高
齢者の方々と学生との交流事業
を定期的に行っています。ほと
んどの方は学生が公民館に出向
いていきます。十一月には高齢
者を本学にお招きし、お昼をは
さんで三時間ほどレクリエー
ション等で
交流しまし
た。留学生
が母国の踊
りを披露し
て皆で一緒
に音楽に合
わせて身体
を動かすと



一年間を振り返って



キャリア育成学科
介護福祉コース二年
田中 未玖

入学してから一年が経ちまし
た。入学当初は、介護の知識も
なく知っている人もいない状態
からのスタートだったので不安で
いっぱいでした。しかし、介護福
祉コースは他のコースとは違い少
人数なので、一か月も経たないう
ちにクラス全員と打ち解けるこ
とができ、充実した日々を過ご

会場はとても明るい雰囲気につ
つまれました。

オープンキャンパス・高短フェア
高校生を対象に六月・七月に
オープンキャンパスを、三月に
高短フェアを開催しました。ど
ちらも学生が主体となつて企画
運営しました。高短フェアで
は「障害者スポーツ体験コー
ナー」「障害者のコミュニケーション
体験コーナー」「福祉用
具体験コーナー」を設け、介護
福祉コースの
魅力を伝えま
した。五十名
を超える高校
生の参加があ
り学生達も元
気いっぱい活
躍してくれま
した。



学生生活が始まった今の心境



キャリア育成学科
介護福祉コース二年
坂 和香

時間の経過は驚くほど早い。
日々を無為に過ごさないうよう
時間に必死にしがみついている。
私はこれまで勉強が好きでは
なかった。
しかし、今はその思いが幻想で
あつたかのように勉強が楽しい。
そう思えるようになったのも、
環境の変化が大きな要因である
と感じている。



名前deコミュニケーション

長谷川 恭子

私は音楽療法士でもあり、数
年に渡る高齢者の集団音楽療法
セッションの経験がある。そこでい
つも行っているのが、「名前deコミュ
ニケーション」と題し、「ご利用者様
の名前をお一人ずつ呼びながら参
加人数を確認している。参加者
の中には認知症が進行し意思疎
通が難しい方や、集中が持続せず
離席が多い方もみえるが、その方
の名前をお呼びした際にはこちら
に目を向け、にこやかな表情で
挙手される場面がたびたび見受

クラスは留学生が約半数を占
めており、皆学ぶことに対して活
力に満ちている。

そして、クラスの雰囲気も心地
良い。誰かが発言すれば誰かが受
け取ってくれる。
安心した気持ちの中で学習活
動に励むことができるので、積極
的に発言することもできるよう
になった。

級友の未来予想図に感化され、
将来を開拓する力をつけようと
奮い立たされた。
心地良い刺激を受けながら、新境
地より明日の自分を見据えている。

けられる。そして、「名前deコミュ
ニケーション」を継続することに
より以前に比べて声量が増した
方など、ご利用者様の新たな発
見も感じるようになった。心理學
的にいうと相手から「好きです」
や「愛してる」など愛の言葉と言
われるよりも、自分の名前を呼ん
でもらえるほうが心地よいといわ
れている。それは、自分を認めても
らつているという特別な感覚を抱
くからではないだろうか。また、自
分の名前を呼ばれることは個人
として認識されたということであ
り、喜ぶことはあつても嫌になる
人はいないだろう。学生の皆さん
には今後社会に出た際、どのよう
な現場であつても相手の名前を憶
えて呼び、信頼関係を一層築いて
ほしい。

学生自治会

こんにちは、私たちは学生自治会執行委員の十三人です。今年度から執行委員として様々な活動をしていきます。先輩方からのアドバイスをいただいて、少しずつ自分たちの役割を覚えることができました。これから先も、先輩方から学んだことを活かし、自治会活動に励みたいと考えています。

私たちの初めての活動は、一月に行われた新春運動会です。千支の十二支でチームを作り、玉入れやボールリレー、抽選会など、それぞれのチームが競い合い、とても盛り上がりがあった行事となりました。五月にはDJC祭を開催します。昨年度よりも盛り上げていきたいと思っています。

四月の新生ガイダンスでは、私たちが中心となって初めて企画と進行を行い



ました。そして、十月には高田短期大学の一大イベントである大学祭が行われます。今年度は、十月二十日(土)、二十一日(日)に開催します。大学祭では、皆さんの意見や要望を取り入れ、地域の方々との交流や学生同士の交流も深め、より良い大学祭にしていきたいと考えております。まだまだ不安な面や至らぬ面も多々ございますが、学生皆さんの短大生活をより良いものにしたと考えておりますので、ご意見ご指導の程よろしくお願ひします。

部活動の紹介

高田短期大学には常に十以上の運動系、文化系のクラブサークルがあります。運動系は強化指定クラブの女子サッカー部、女子バレーボール部をはじめ、他にもバスケットボール部やバドミントン部があり、試合に向けて日々活動しています。文化系としては軽音楽部、茶道部、ボランティア部、吹奏楽部、ネイチャークラブ、バルーンアートサークル、写真部、人形劇団「縁起人」があり、施設や高短祭での公演に向けて日々活動しています。

今回は吹奏楽部の活動を紹介します。吹奏楽部は毎年二回、昼休みに高田短期大学の食堂でランチタイムコンサートを開催しています。他にも昨年の夏休みには亀山市の保育園で訪問演奏を行いました。子どもたちがどうしたら楽しむことができるのかを部員で話し合い、カスタネットを持参し、なじみのある童話のメロディーを演奏し、園児達と一緒に演奏を楽しみました。十二月には老人ホームを訪問し、コンサートを開催しました。笑点など親しみのある曲を選曲し演奏し、たいへん好評でした。クラブサークル活動は学科学年の壁をこえ、楽しんで活動し、学生生活のプラスアルファとなっています。

女子バレー部



更なる飛躍を目指して

バレー部監督 秋津 修

一昨年創部一年で一部昇格を果たし、昨年は一部リーグで春四位、秋三位と大躍進を遂げ、東海地区代表として全日本インカレに短大では全国唯一の出場を果たすなど輝かしい成績を収めることができました。本年は主力四名が抜け四月入学した新入生を中心にしたチームで一部リーグを戦っております。目標は昨年以上の成績ですが、チームを組んで二カ月にも満たない状態での戦いですので一戦一戦全力で戦っていきたくと思えます。また、バレー部最大の目標である勉強とクラブの両立に全力を尽くしていきたいと思えます。



女子サッカー部



日進月歩

女子サッカー部監督 宮本ともみ

本格的に活動を始め、今年で三年目となります。昨年は県リーグ二部からのスタートでしたが、前期で全勝優勝し、後期では一部リーグに参戦することができました。全日本大学女子サッカー選手権大会東海地区予選では二勝をあげ、一年ごとに着実に成長できていると感じます。また、卒業生をなでしこリーグに参戦する伊賀FCくノ一に輩出し、日本の女子サッカーファンの皆さまに、この高田短期大学の名前を広めることができ、大変うれしく思っております。今年からは高田高校女子サッカー部とも連携しながら、東海リーグアスチューデントリークに参戦し、さらに活躍の場を広げていきたいと思っております。今後ともあたたかいご声援よろしくお願ひいたします。



平成30年度
新入生宿泊研修



学務委員長 福西 朋子

新入生オリエンテーションの締めくくりとして、「新入生宿泊研修」を四月十九日(木)、二十日(金)に白山ヴィレッジゴルフ倶楽部で行いました。

新緑のように生き生きとした新入生の笑顔あふれる二日間となりました。研修への取組み、新しい仲間とのかかわりにより、短大生としての自覚・自立心や協調性を養うこと、そして、学生・教員相互の親睦をはかることができました。

学長講話を含む開講式に始まり、学科研修やパターゴルフを実施しました。

学科研修

子ども学科

一日目に、毎年恒例の「つくって、あそんで、みせて二〇一八」を行いました。ゼミ毎に子どものうたと色を題材にダンスの振り付けや衣装製作を行いました。限られた時間の中で、どのゼミもアイデアや工夫満載で、その成果が披露されました。まだ入学して間もない学生たちですが、段取りを組むこと、いかに複数の相手に伝えるかなど、チームワークよく取り

組む大切さを学んだのではないでしょうか。



キャリア育成学科

一日目の学科研修では、「先生にインタビュー」と題して、学生がグループに分かれて学科教員への質問をワークとライブの切り口で考えてインタビューを行い、それを取りまとめてポスターを作成し、発表を行いました。

定められた時間の中で、質問する事項を考え話し合い、インタビューを行い、模造紙にイラストなども入れながらとりまとめ、発表も行うという凝縮したプログラムですが、学生たちは協力、役割分担をして、最後までやり切ってくれました。

研修アンケートでは、先生のことを知ることができた。新しい友達が出来た、違うコースの子と知り合えた、違うコースのことが多かったという回答が多くあり、学生、教員の「和」をつくる、有意義な研修となりました。



研修後は、バイキング形式の夕食でした。特にスイーツには長蛇の列。あつという間になくなりました。

パターゴルフ大会

二日目は、両学科ともパターゴルフ大会を行いました。ゼミグループで賞品をかけて打数を競い合いました。力みすぎて空振りしたり、ホールインワンに大歓声を上げたりと、大はしゃぎのプレーとなりました。ゼミ生間で互いの個性を知り、笑ったり励ましたりする中で、関係を築く基が出来たようです。

オーストラリア研修

オーストラリア研修を通して

子ども学科 二年 景井 采音

私は、海外英語研修で日本と異なる文化を知ることができ、苦手を英語を少しでも好きになるために参加を決めた。実際にオーストラリアへ行ってみると、生活の形や表現の仕方など日本と異なる部分が多くあった。十三日間のオーストラリアでの生活を通して主に二つのことを学んだ。一つ目は、相手に自分の思いを英語で伝えることの難しさである。ホストファミリーが私に質問をしてくれたり、オーストラリアについての話をしてくれたとき質問の意味や会話の内容は理解できるが、自分の気持ちや考えを英語でうまく伝えることができない場面が多くあった。自分の勉強不足を痛感し、学校で学んだ英語の知識を実際に使う機会が必要だと感じた。改めて英語の必要性を感じた。二つ目は、教育の違いである。ドロマナ幼稚園では教室の環境が日本の幼稚園とは全く異なっていた。異なる遊びのスペースがいくつもあり、子どもたちが遊びたいと思ったらすぐに遊ぶことができるようにさまざまな種類の道具が設置されていた。



環境のほかに一番驚いたことは教師が子どもたちに必要以上に干渉しないことである。日本の幼稚園や保育園では子どもが怪我をした場合すぐに駆け寄り過剰に心配しているように感じる。しかし現地の先生は子どもがこけてもただ見守るだけのように思えた。障害がある子どもに対しても、その子の個性として見ているように思えた。日本では考えることができないようなことでもオーストラリアでは普通のことだったり、多くの刺激をもらい教育や保育についての考えの幅が広がるともいえる経験をする事ができた。海外英語研修を通してオーストラリアの文化や生活、環境など実際に行かなければ分からないことが多くあった。今回の経験を忘れることなくこれからの人生に生かしていきたいと思う。

キャリア支援センター

キャリア支援センター長 岩間 知之

学生のみなさん、キャリア支援センターに入室されたことがあります。当センターは2号館玄関フロア横にあって、日々みなさんの就職活動全般をサポートしています。

それでは、四人の新人メンバーを含め、職員全員を左下の写真で紹介いたします。

まず、左から、元公立高等学校長で県内保育施設の全てを熟知している梶間稔先生。その隣がキャリアコンサルタントとCDA国家資格を持つキャリアカウンセラー、野崎千恵先生。次が元公立幼稚園長で新任の金森まさ子先生。子ども学科一年生のゼミと後期『保育内容表現』の授業も担当します。その横が同じく新任で二年生後期『家庭支援論』も持つ高短OG前田美菜子先生。公立私立両方の保育園で勤務経験があります。次が私、センター長の岩間知之です。その隣が新任で元銀行支店長佐波陸巳先生。県内企業をつぶさにご存知です。次に前圖書館司書で主に庶務を担当する新任の岡晃史先生。最後に元銀行支店長でキャリアサポーター三年目のベテラン小田富彦先生です。



さて、みなさんが職業を持ち、社会に出るまでに身に付けるべきことは沢山あります。とりわけ、信頼される社会人になるべく、努力する姿勢は、園や施設、企業等のためだけでなく、自らの人生を豊かで実り多いものにするために重要です。知識や技能はとても大事ですが、まずは明るい笑顔と元気なあいさつ、そして周囲の人々をリスペクトできる「やわらか心」こそ、学生時代に培いたいものです。

「ボランティア活動支援室」
当支援室は、キャリア支援センターの東隣にあります。月、水、金曜日には杉谷哲也先生が在室され、国際的なボランティアをはじめ、みなさんの様々なボランティア活動を支援しています。一度ぜひ、訪ねてください！

保健室



富永 礼子

短大での学びが十分な成果を挙げるためには、まず心身ともに健康であることが必要です。保健室では、皆さんが心身ともに健康で充実した学生生活を送れるようお手伝いをしています。

こころや身体の健康について、より健康になるためにはどうすればいいかを皆さんと一緒に考えていきます。社会人になるまでに、こころや身体の健康を気遣える人になってください。

学校で体調が悪くなったときやケガをしたときは応急処置をします。ベッドやソファアで休養もできます。

保健室からは、大切なお知らせや健康に関する情報をメールや掲示板等でお知らせします。で、確認して行動に移してください。

また、こころや身体のことだけでなく、対人関係や将来のこと、どんな相談でも大丈夫です。何か相談したいと思ったとき、困ったときには保健室を訪ねてみてください。保健室でカウンセリングの予約もできます。

059-2531-7031
保健室直通電話

カウンセリング室



橋本 景子

「誰かに話す」あるいは「誰かと話す」と心が楽になったことはありませんか？「話す」とは「離す・放す」ことに繋がります。ただ安心して話せない状況で本音は語れません。話しているつもりでも本音ではなかったりします。重い荷物も二人で持てば少しは楽になります。苦しいことも自分一人ではなく、分かち合うことで楽になれるのです。

カウンセリング室は、お説教や指導、指示や説得をする場ではありません。どんなことでも、皆さんの話に真剣に耳を傾けます。「こんなことは人には話せない」「こんなくだらない話……」そう思っていますか。心に怒りを溜めていますか。

おそらく大半の方が今まで経験したことのない場だと思えます。五十分間あなただけの時間です。あなた中心に時間が流れます。是非一度話して（放し）来ませんか。安心して吐き出し、心の中が少し軽くなる感じを味わってみてください。

話の内容が他の人に漏れることは絶対にありません。でも、誰かに繋いで欲しいときはそのお手伝いもします。待っています。

外国人留学生支援室

外国人留学生支援室長 大橋 一喜

外国人留学生支援室では、留学生の修学だけでなく、生活面を含めた全般的な支援を目的に活動を行っています。事務局7名のスタッフにより構成されており、留学生ごとの担当者を定めています。具体的には、アルバイト先の紹介、アルバイト時間の管理、奨学金の紹介、資格取得のサポート、居住先の紹介、生活用品の貸与などを行っています。また、定期的に留学生ミートイングを開催し情報交換をしたり、卒業した留学生との交流会を開催し貴重な経験談やアドバイスをもらえる機会と なっています。

留学生は、二年生十四名と一年生十二名となっており、出身国は、中国、ベトナム、スリランカ、ネパール、フィリピン、モンゴルなど多くの国籍の留学生が在籍しています。また、介護福祉コース一年生の授業において、日本語T.Aを配置させていただき、学業の習得支援を行っています。

今後とも外国人留学生の有意義な学生生活の充実のためスタツフ一丸となり鋭意努力していきますので引き続きご理解ご協力の程、よろしく願います。

仏教教育研究センター

センター長 松山 智道

当センターは、本学の建学の精神に基づき、仏教文化の護持発展を目的に活動しています。

その活動内容は、まず第一に、毎月一回、研究会を開催しています。現在は、高田派中興の祖である真慧上人が著された『顕正流義鈔』の研究を進めています。

第二には、図書館に寄贈されている貴重な仏教関連図書および資料の整理と管理を行っています。

第三の活動としては、年に二回、「公開講座」を開催しています。地域の方々に仏教に触れていただく機会をご提供することを目的に、高田本山教学部との共催にて真宗高田派本山にて開講し、多くの方が受講されています。



育児文化研究センター

センター長 鷺見 裕子

当センターは、平成十六年の開設時より育児教育、子育て問題、児童文化等の研究活動と、地域社会への貢献と連携を目的とした様々な子育て支援事業を展開しています。今年度も地域の子育て課題をふまえて地域協働で活動を進めていきます。



* 研究活動

学内外の研究員が年三回の定例研究会やグループ研究会により研究を積み、研究の成果や情報を研究紀要「育児文化研究」等により発信しています。

* 地域子育て支援事業

週二回、本学育児文化室で開催する「おやこひろば たかたん」は八年目を迎えました。参加親子の笑顔と明るい声が溢れる和



図書館

図書館の授業支援
図書館長 鷺尾 敦

昨年、私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会の会長校として研修会を開催した。ここでは図書館が「授業支援」「学習支援」をどう進めるかについて意見交換と事例交換を行った。

図書館として、授業支援を取り組んでいる館が会員館全十五館のうち十館であった。大学の一連の教育改革において図書館が大学の学習拠点であり、学習支援環境の充実がより一層求められる中において、授業と連携した取り組みを行っている館が多くはないことが明らかになった。それでも取り組んでいる館は、それぞれの短大の特徴を生かした取り組みを行っており、本学でも共通教育の改革の中でスタートアップゼミナールとの連携はとても評価されるものであった。

今後も授業との連携を模索するとともに、学生の学習支援をいかに進めていくかが課題である。先生方、そして図書館メイクトを中心とした学生の意見を聞き、本館が学生の学習の拠点となるよう、授業支援や学習支援の取り組みを積極的に推進していきたいと思っている。



キャリア研究センター

センター長 中畑 裕之
 キャリア研究センターは高田短期大学の地域連携施設として、津市、百五銀行・百五総合研究所、まちづくり津夢時風、三重こどもわかもの育成財団と連携協定を結び、様々な連携事業を行っています。また、本学卒業生や地域就業者のスキルアップを図る、就業支援セミナー等を開催しています。以下に、活動の一部をご紹介します。

* 研究活動

人材育成、雇用・労働問題、地域社会等に関する研究結果をとりまとめた、「キャリア研究センター紀要・年報」第四号を発行しました。

* 連携事業

「女性アスリートのセカンドキャリアシンポジウム

百五銀行・百五総合研究所と本センターの主催、三重県体育協会、みえ女性スポーツ指導者の会、伊賀FCくノ一との共催で、標記シンポジウムを平成三十年一月六日(土)に本学講堂で開催し、一四七名の参加を得ました。

参加者からの評価は高く、新聞、テレビでも報道されました。



「就業支援セミナー」
 百五銀行・百五総合研究所との連携事業として、「Access入門講座」知って得するWord・Excelの裏技(Part3)を開催し、いずれも定員いっぱい参加を頂きました。
 三十年度も開催いたしますので、お問い合わせください。



介護福祉研究センター

主任 中川 千代

本学介護福祉研究センターは平成二十六年に開設され五年目を迎えることとなりました。これまで、介護福祉、高齢者問題、障害者問題等に関する研究を行うとともに、地域福祉に寄与する機関として様々な事業を展開して参りました。今年度も本学付属の地域連携施設として地域の介護・福祉の発展に寄与できるよう活動していきます。

◇ 介護福祉セミナー

本学介護実習室等で年二回開催します。今年度第一回は六月二十四日(日)に「機能を活かした起居動作と移乗動作介助」というテーマで理学療法士が講師になります。第二回は十二月十五日(土)に「音楽をとり入れた介護予防」を予定しています。一般の方や卒業生が対象です。

◇ 高校生等を対象とした介護福祉啓発活動

高校生や留学生在が対象で県内の特別養護老人ホーム等を研究員や在学生とともに見学します。

◇ 高齢者を対象とした介護福祉啓発活動

地域の高齢者を対象として本学や地域に向いて介護を学ぶ学生達とともに交流しながら学ぶ場を提供します。



◇ 介護職員キャリアアップ講座
 本センター研究員が講師として、地域の施設へ出向き講義を行います。

◇ 研究活動
 学内外の研究員が研究発表を行う定例研究会を毎月行っています。卒業生や一般の方も参加可能です。また、研究紀要「介護・福祉研究」第四号を三月に刊行しました。

高大教育交流事業

入試広報委員長 野呂 健一

本学は平成二十五年度から高大教育交流事業に取り組んでおり、現在十三の県立高校と協定を結んでいます。各高等学校との教育交流を通じて、ほぼ百パーセントの学生が県内で就職する、本学の存在価値を地域に浸透させていきたいと考えています。

高大接続の教育課題についての協議や情報交換を行う「高大教育交流連絡協議会」を毎年開催しています。昨年度は、「高大連携によるシームレスな学生支援」をテーマに協議し、活発な意見交換が行われました。入学前の三月下旬に協定校を訪問し、支援が必要な入学予定者についての聞き取りを行い、その結果を踏まえ、学生が充実した短大生活を送れるように支援しています。

また、教育交流の一環として、本学での特別授業や授業見学、高校で行う出前授業やガイダンス等を、昨年度は一四〇回実施しました。

高校生向けのイベントとして、オープンキャンパスを六月十六日(土)と七月十五日(日)、春のプレオープンキャンパスである高短フエアを三月十日(日)に開催します。本学に興味を持っている高校生に、ぜひご案内ください。

着任のみなさん



ご縁に感謝して
子ども学科
榎原 尉津子

このたび、ご縁があり鈴鹿大学から着任いたしました。ちょうど八年前、二十年間務めさせていただいた本学での教育職を人生の一区切りという思いから退職をいたしました。他の大学とのご縁があり県内外の大学で幼児教育に携わっておりました。そして再び、満開の桜咲く親鸞坂を登り、教育・研究する機会を与えていただいたことに深く感謝し、日々精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



はじめの一步
子ども学科
金森 まさ子

私は、三月まで四日市市の幼稚園に勤めていました。保育の仕事は楽しく自分を成長させてくれる尊い仕事です。そんな楽しさややりがいをお伝えしたいと思います。
緑豊かなキャンパスに小鳥がさえずり、この学びの環境がとても気に入っています。私も共に学び挑戦し、はじめの一步を踏み出したいと思えます。どうかよろしくお願いたします。

身を引き締めて

キャリア育成学科
山下 道世

以前は鈴鹿にある大学で英語の非常勤講師をさせていただいておりました。こちらに来てからはゼミの担任や委員会での役割など、初めて経験させていただくことも多く、手探りの毎日です。教職員の皆様のお力をお借りしながら、少しでも早く学生さんをはじめ、本学の皆様のお役に立てるよう、より一層精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願致します。



喜びと感謝
キャリア育成学科
長谷川 恭子

この度、介護福祉コース教員として着任いたしました長谷川です。私は本学の卒業生です。あれから約九年、教員という形で本学に戻ってこられたことを光栄に思っております。前職は介護福祉士や音楽療法士として介護施設等で勤務しておりました。そこでの経験や技術を学生の皆さんにお伝えし、学び多い二年間にしていきたいと思えます。



運命的なご縁を感じて
第二の人生スタート
学生課
大橋 一喜

四月から学生課でお世話になることになりました大橋でございます。銀行で長年勤務しており、支店営業と本部の人事業務をしていました。
不慣れで皆様方には大変ご迷惑をお掛けすることも多くあると思えますが、学生の方が「ここに来て本当良かった」と実感していただけるといいな、と実感していただければ幸いです。今後ともよろしくお願いたします。



たくさんの笑顔の花が咲きますように
キャリア支援センター
前田 美菜子

保育園の先生になることを夢みて勉強した二年間、思い出がたくさんある母校、高田短期大学にお世話になることになりました。保育園で勤務した経験を生かして、学生の皆さんと共に学び合えたらと思っています。たくさんの笑顔に出会えることを楽しみにしています。



六十歳からの出会いに感謝
キャリアサポーター
佐波 睦巳

四月からキャリア支援センター

ターで就職の支援を担当しております。
六十歳までは百五銀行で働いておりました。営業店や本部勤務を通して、若手行員の指導に興味を感じ、取組んできました。この経験を生かして、皆さんの成長に繋がるお手伝いをしていきたいと思えます。

六十歳からの多くの出会いに感謝し、真摯に取組んでいきますので、よろしくお願致します。

《人事》

○退職

- キャリア育成学科 特任教授 畠山 義啓
- 子ども学科 准教授 柳瀬 慶子
- キャリア育成学科 助教 徳山 貴英
- 学生課長 増亦 浩一
- キャリア支援センター 横山 雅子
- キャリアサポーター 高橋 孝範
- 育児文化研究センター兼 水野 潤子
- キャリア支援センター 稲田 直子
- 育児文化研究センター兼 稲田 直子

同窓会の近況

北端 一子

毎年恒例になっている高短祭への同窓会の参加。新しい風を入れたいと、新しく理事になった方の参加協力を、お願いしました。社会人としてスタート始めた年での参加に、戸惑いもあったと思いますが、快く協力していただきました。終わってからは、いろいろ意見を聞きたかったのですが、思うように時間が取れなかった事が心残りでした。これからも定着出来るように、いろいろ試したいと思えます。

高短祭でのバザーを楽しみに行っている方々のために、品物の協力も求めています。参加協力も大歓迎です。収益金は、同窓会開催への補助に使っていただいているので、これからも補助出来るようにバザーを続けたいと思えます。ご協力をよろしくお願い致します。ぜひ見に来て高短祭を楽しんで下さい。



卒業生からのメッセージ

「幼稚園の現場に立って」



子ども学科
平成二九年度卒
山中 綾夏
①津市立高岡幼稚園
②実習とは違い、自分が担任として

クラスを持つことはとても責任が重く大変です。しかし、日々子どもたちの近くで成長を見守り関わる事ができることがとても嬉しくやがいが感じます。
③どんなときでも子どもたちと同じ目線に立ち、子どもの側に寄り添える保育をしていきたいです。そして卒園した園児も帰って来られるような温かい場所をつくっていききたいです。④同じ夢を持ち励ましあいながら一緒に頑張れる仲間や、たくさん話を聞いてくださる先生方と出会うことができる場所でした。⑤二年間過ぎてみるととてもあっという間でした。時間がある学生の間にしか出来ないことはたくさんあります。今のうちに様々なことに挑戦してほしいです。そして短大で出会った仲間や先生は、就職してから心の支えになるので大切にしたいです。

「社会人としての新たなスタート」



キャリア育成学科オフィスワークコース
平成二九年度卒
水谷 あずさ
①第三銀行②同期や社員の方々は優しく、時には厳しいお言葉を与えてくださるので自分を成長させてくれる企業に入社することが嬉しく思います。一か月と少しが過ぎましたが電話応対や業務への責任の重大さに不安になることも多くあります。コソコソと仕事を覚え、少しでも早く不安を取り除き正確かつ迅速に業務をこなせるように頑張ります。③お客様からの信頼を得られる行員になりたいです。信頼があつてこそ銀行であるため、安心して利用していただける職場づくりに貢献していきたいです。④多くのことを二年間で学ぶため忙しく思うこともありましたが、その分勉強も遊びも充実させることができる学校だと思います。⑤二年間という短い期間ではありますが、いろんな場所へ行きたくさんの人と交流を深め視野を広げていってください。

いお言葉を与えてくださるので自分を成長させてくれる企業に入社することが嬉しく思います。一か月と少しが過ぎましたが電話応対や業務への責任の重大さに不安になることも多くあります。コソコソと仕事を覚え、少しでも早く不安を取り除き正確かつ迅速に業務をこなせるように頑張ります。③お客様からの信頼を得られる行員になりたいです。信頼があつてこそ銀行であるため、安心して利用していただける職場づくりに貢献していきたいです。④多くのことを二年間で学ぶため忙しく思うこともありましたが、その分勉強も遊びも充実させることができる学校だと思います。⑤二年間という短い期間ではありますが、いろんな場所へ行きたくさんの人と交流を深め視野を広げていってください。

「一人の職員として」



キャリア育成学科介護福祉コース
平成二九年度卒
鈴木 碧衣
①特別養護老人ホーム②私の配属された現場は、意思疎通が困難な方や生活していく上で介助が全て必要な方など、様々な方が利用しています。毎日、大変だと思うことはたくさんありますが、利用者様からの「ありがとう」という言葉に、この仕事をしていて良かったなと思います。③早く仕事を覚え、二人で任せてもらえた時に、先輩職員のように速く丁寧な仕事ができるようになりたいです。また、実習に来られた方にわかりやすく指導ができるようになりたいです。④親身になってくれる先生方や専門的な知識が学べ、これから介護福祉士という専門家として働く仲間に出会える場所です。⑤二年間はあっという間で、やってみてみたい事があるなら、どんどん挑戦していきましょう。また、高田短大で学んだ知識や技術は必ず役立ちます。皆さんが卒業した時、同じ現場で働けることを楽しみにしています。

た現場は、意思疎通が困難な方や生活していく上で介助が全て必要な方など、様々な方が利用しています。毎日、大変だと思うことはたくさんありますが、利用者様からの「ありがとう」という言葉に、この仕事をしていて良かったなと思います。③早く仕事を覚え、二人で任せてもらえた時に、先輩職員のように速く丁寧な仕事ができるようになりたいです。また、実習に来られた方にわかりやすく指導ができるようになりたいです。④親身になってくれる先生方や専門的な知識が学べ、これから介護福祉士という専門家として働く仲間に出会える場所です。⑤二年間はあっという間で、やってみてみたい事があるなら、どんどん挑戦していきましょう。また、高田短大で学んだ知識や技術は必ず役立ちます。皆さんが卒業した時、同じ現場で働けることを楽しみにしています。

- ① 勤務先
- ② 就職して嬉しかったこと、辛かったこと
- ③ 将来の夢
- ④ 高田短大とは
- ⑤ 後輩へのメッセージ

公告 平成29年度における学校法人高田学園の決算は次のとおりですので、当学園寄附行為第40条の規定に基づき公告いたします。

学校法人 高田学園 (単位: 円)

貸借対照表 (平成30年3月31日)

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	(8,172,382,008)	(8,090,712,352)	(81,669,656)	固定負債	(248,633,413)	(242,057,435)	(6,575,978)
有形固定資産	(6,320,624,996)	(6,501,141,203)	(△180,516,207)	退職給与引当金	248,633,413	242,057,435	6,575,978
土地	1,025,122,922	1,025,122,922	0	流動負債	(471,438,471)	(442,904,702)	(28,533,769)
建物	4,015,891,322	4,169,568,065	△153,676,743	未払金	64,963,616	47,707,087	17,256,529
構築物	881,182,870	934,698,215	△53,515,345	前受金	317,493,000	311,043,000	6,450,000
教育研究用機器備品	123,891,905	100,556,883	23,335,022	預り金	28,968,499	24,825,725	4,142,774
管理用機器備品	11,191,068	8,055,420	3,135,648	修学旅行費預り金	53,046,156	52,524,456	521,700
図書	223,583,668	221,229,666	2,354,002	卒業諸費預り金	6,967,200	6,804,434	162,766
車輛	7,242,763	11,490,554	△4,247,791	負債の部合計	(720,071,884)	(684,962,137)	(35,109,747)
学苑林	29,919,478	29,919,478	0	純資産の部			
建設仮勘定	2,599,000	500,000	2,099,000	科目	本年度末	前年度末	増減
特定資産	(1,752,110,000)	(1,490,250,000)	(261,860,000)	基本金	(12,133,304,251)	(11,832,063,401)	(301,240,850)
退職給与引当特定資産	312,490,000	312,490,000	0	第1号基本金	11,761,304,251	11,660,063,401	101,240,850
施設設備補充引当特定資産	1,239,620,000	1,177,760,000	61,860,000	第2号基本金	200,000,000	0	200,000,000
第2号基本金引当特定資産	200,000,000	0	200,000,000	第4号基本金	172,000,000	172,000,000	0
その他の固定資産	(99,647,012)	(99,321,149)	(325,863)	繰越収支差額	(△4,151,199,469)	(△3,950,111,393)	(△201,088,076)
借地権	2,257,500	2,257,500	0	翌年度繰越収支差額	△4,151,199,469	△3,950,111,393	△201,088,076
電話加入権	1,285,980	1,285,980	0	純資産の部合計	(7,982,104,782)	(7,881,952,008)	(100,152,774)
施設利用権	498,330	579,040	△80,710	負債及び純資産の部合計	(8,702,176,666)	(8,566,914,145)	(135,262,521)
ソフトウェア	1,396,440	1,645,920	△249,480				
有価証券	80,070,136	80,070,136	0				
差し入れ保証金	350,000	350,000	0				
長期前払金	13,788,626	13,132,573	656,053				
流動資産	(529,794,658)	(476,201,793)	(53,592,865)				
現金預金	331,759,203	327,081,217	4,677,986				
未収入金	104,732,552	50,957,029	53,775,523				
前払金	2,776,226	578,440	2,197,786				
立替金	30,513,321	38,266,159	△7,752,838				
修学旅行費預り資産	53,046,156	52,524,456	521,700				
卒業諸費預り資産	6,967,200	6,794,492	172,708				
資産の部合計	(8,702,176,666)	(8,566,914,145)	(135,262,521)				

就職先等一覽

子ども学科

- ◆公立幼稚園
 - 津市立高岡幼稚園
- ◆私立幼稚園
 - あおい幼稚園、津幼稚園、第一さくら幼稚園、第二さくら幼稚園、道伯幼稚園、富田文化幼稚園、西浦和幼稚園、ふたば幼稚園、まつさか幼稚園、みずきが丘道伯幼稚園
- ◆公立保育園
 - 伊勢市立保育所きらら館、大台町立日進保育園、桑名市立厚生館保育所、志摩市立鶴方保育所、鈴鹿市立牧田保育所、多気町立相可保育園、多気町立勢和保育園、津市北口保育園、津市橋南保育園、津市雲出保育園、津市芸濃保育園、津市こへき保育園、津市千里ヶ丘保育園、津市中央保育園、津市野村保育園、津市八知保育園、東員町立笹尾第二保育園、鳥羽市立あおぞら保育所、松阪市立春日保育園、松阪市立第一保育園、松阪市立第二保育園、松阪市立つばな保育園、明和町立さとえ保育園、四日市市立あがた保育園、四日市市立笹川保育園
- ◆私立保育園
 - 愛華保育園、いそやま保育園、上浜保育園、内部ハートピア保育園、嬉野保育園、えがお保育園、大里保育園、亀山愛児園、神戸保育園、くまだ保育園、斎宮Babyroom、サファナ保育園、志登茂保育園、たのしい保育園、第二はなこま保育園、高岡ほろりん保育園、高花平保育園、豊野保育園、長

太の浦保育園、にじいろ保育園犬蔵、ハートピア保育園、はなこま保育園、久居保育園、ひよこ保育園、府中保育園、松阪仏教愛護園、マリア保育園、三重愛育保育園、三重保育院、みそら保育園、山室山保育園、ローズ幼児園、わかすぎ第二保育園、わかすぎ第三保育園、わかすぎ保育園、若葉保育園

◆公立認定こども園
玉城町立下外城田保育所、明和町立みようじょうこども園

◆私立認定こども園
こどもの杜ゆたか園、修道こども園、白百合幼稚園、聖マリアこども園、NOBENOこども園、藤水保育園、ほだいこども園、みらいの森ゆたか園、明和ゆたか園、杜の街ゆたか園、有緒こども園、ルーテル二葉認定こども園

◆児童養護施設等
エスプランス桑名、エスプランス四日市乳児院、里山学院乳児院、障害者支援施設ひがしうらの家、真盛学園、鈴鹿里山学院、世界SHENZHENこども学校のびすく、名張養護学園、聖の家、ほうせん津島2、みどり自由学園

◆障がい者支援施設
三重済美学園

◆企業
ICDAホールディングス(株)、(株)アニュー美研、(株)エクセティ、御在所ロープウェイ(株)、(株)ミユゼプラチナム(有)ジョイウェアズ(株)久居リクシル(LIXIL)製作所、(公財)三重県体育協会

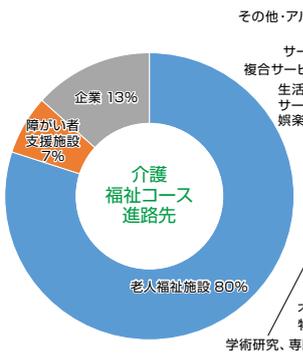
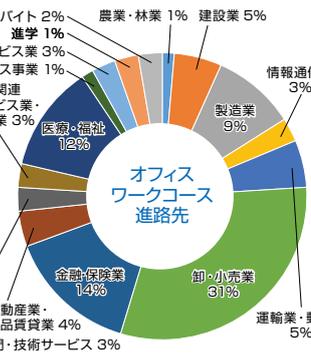
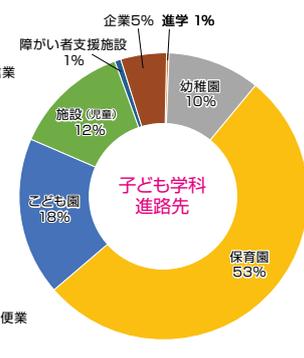
◆進学
相山女学園大学

キャリア育成学科 (オフィスワークコース)

- ◆農業・林業
 - 赤塚植物園グループ
- ◆建設業
 - (株)川崎ハウジング、積水ハウス(株)、(株)ビーディ・ホーム、(株)リョーケン
- ◆製造業
 - (株)イワキ、(株)エスケイ、(株)サイネックス製作本部、サンユー技術工業(株)、中勢製水冷蔵(株)、広伝(株)、三重金属工業(株)
- ◆情報通信業
 - トランスシステイコンピュータサービス(株)、(株)ピコナレッジ
- ◆運輸業・郵便業
 - (株)日本陸送、(株)橋本商事冷凍輸送
- ◆卸売業・小売業
 - ICDAホールディングス(株)、旭工機(株)、(有)かわむらや、(株)戸田医科器械店、トヨタカローラ三重(株)、ネットヨタ三重(株)、ネットヨタノヴェル三重(株)、(株)ホンダカーズ三重、マックスバリュ中部(株)、三重いすゞ自動車(株)、三重トヨペット(株)、三重日産自動車(株)、三重日野自動車(株)、(三)三菱自動車販売(株)、三重ヤクルト販売(株)
- ◆金融業・保険業
 - (株)第三銀行、(株)百五銀行、(株)三重銀行
- ◆不動産業・物品賃貸業
 - (株)賃貸メイト、(株)トヨタレンタリース三重
- ◆学術研究・専門・技術サービス業
 - 百五オフィスサービス(株)、百五不動産調査(株)

◆生活関連サービス業・娯楽業
(株)永和商事、(株)リンリン

◆医療・福祉
(医社)青藍会、青木内科、足立耳鼻咽喉科、鈴鹿回生病院、(株)ソラスト伊勢赤十字病院、(医)津眼科、服部眼科、丸の内まつなが眼科、三重県立志摩病院、(医)三重ハートセンター



複合サービス事業

- ◆複合サービス事業
 - 松阪農業協同組合
- ◆サービス業
 - (株)エイジエック、(公財)三重県体育協会
- ◆進学
 - 名古屋経済大学
- ◆キャリア育成学科(介護福祉コース)
 - ◆老人福祉施設
 - (社福)英水会、(社福)英水会(特別養護老人ホーム)英水苑(桜地区)、(社福)永甲会(特別養護老人ホーム)かすみの里、(社福)洗心福祉会、(社福)聖フランシスコ会、安濃聖母の家、(社福)高田真善会、特別養護老人ホーム報徳園、(社福)高田福祉事業協会(特別養護老人ホーム)高田光寿園、(社福)天年会、鈴鹿特別養護老人ホームかなしろうず園、(社福)博愛会、鈴鹿特別養護老人ホームルーエハイム、(医)緑の風介護老人保健施設いの森、ヤナセメディケアグループ(医)碧会、(社福)寿泉会
 - ◆障がい者支援施設
 - (社福)聖和福祉会(障害者施設)聖愛園
 - ◆企業
 - 伊勢湾マリン開発(株)ジョイリハ

編集後記

皆様のご協力によりまして、高田短期大学通信第五十三号発行の運びとなりました。今号は「部活動の紹介」欄を加え、本学のクラブやサークルの活動等について掲載いたしました。今度ともご支援を賜りますようお願いいたします。

※高田短期大学通信「題字デザイン」は、キャリア育成学科オフィスワークコース 平井南帆さんの応募作品を元に作成しました。